

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第5区分

【発行日】平成20年1月24日(2008.1.24)

【公開番号】特開2005-325499(P2005-325499A)

【公開日】平成17年11月24日(2005.11.24)

【年通号数】公開・登録公報2005-046

【出願番号】特願2004-230726(P2004-230726)

【国際特許分類】

D 2 1 H 11/16 (2006.01)

D 2 1 H 27/00 (2006.01)

【F I】

D 2 1 H 11/16

D 2 1 H 27/00 E

【誤訳訂正書】

【提出日】平成19年12月4日(2007.12.4)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

セルロース繊維の少なくとも1つの層を含み、該セルロース繊維の少なくとも幾つかはバルキー繊維であり、板紙は、該板紙の端から端までの熱水 ΔT 少なくとも $0.7^{\circ}\text{C} \pm 2.3^{\circ}\text{C} / 0.1\text{mm}$ の厚さ及び坪量 $200\text{gsm} \sim 500\text{gsm}$ を提供するのに十分に絶縁性である、絶縁板紙。

【請求項2】

前記板紙は密度 0.5g/cc 未満を有する、請求項1に記載の絶縁板紙。

【請求項3】

前記板紙は坪量 $250\text{gsm} \sim 400\text{gsm}$ を有する、請求項2に記載の絶縁板紙。

【請求項4】

前記板紙は坪量 250gsm 以上を有する、請求項2に記載の絶縁板紙。

【請求項5】

前記板紙の厚さは 0.5mm 以上である、請求項3に記載の絶縁板紙。

【請求項6】

前記板紙は、厚さ 0.6mm で熱水 $\Delta T 9^{\circ}\text{C} \pm 2.3^{\circ}\text{C}$ 及び厚さ 1.25mm で熱水 $\Delta T 14^{\circ}\text{C} \pm 2.3^{\circ}\text{C}$ を有し、 $9^{\circ}\text{C} \sim 14^{\circ}\text{C}$ の温度範囲で前記熱水 ΔT は厚さに対して実質的に線形推移である、請求項1に記載の絶縁板紙。

【請求項7】

前記線形推移は $\Delta T 9^{\circ}\text{C}$ 未満に延在する、請求項6に記載の絶縁板紙。

【請求項8】

前記線形推移は $\Delta T 14^{\circ}\text{C}$ を超えて延在する、請求項7に記載の絶縁板紙。

【請求項9】

前記板紙は少なくとも二層すき合わせ板紙であり、少なくとも1層は前記バルキー繊維を含む、請求項1に記載の絶縁板紙。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0029

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0029】

様々な試験方法を、以下の実施例において利用する。熱水 ΔT を、紙コップを通る熱伝達をモデル化するシミュレート試験機中で測定する。プレキシガラスの箱の大きさは12.1 cm×12.1 cm×12.1 cmであり、8.9 cm×8.9 cmの試料開口部を有する。厚さ2.54 cmのポリエチレンフォームを用いて箱を絶縁する。ホットエアガンを使用して、板紙の試料をポリエチレンのシートを用いて積層して、ポリエチレンを板紙の表面に接着する。他に、ポリエチレンを板紙の表面の上に押出してよい。87.8℃の熱水を箱中に注ぎ、小さな攪拌子を挿入し、試料のポリエチレンコーティング面を装置中に置く。箱を次に水平面に向かって90°倒して、水が試料と完全に接触するようにし、攪拌プレート上に置いて、測定段階の最中の攪拌を可能にする。5つの熱電対マイクロプローブを、板紙表面の外側に伝導性テープでとめる。データロガーは内部の水温及び外側表面の温度を記録し、こうした温度から温度低下（熱水 ΔT ）を計算することができる。水温が82.2℃に達するとき、放射率0.93の赤外高温計は試料の外側に照準を合わせて、赤外線測定する。このIRガンを使用して、熱電対の精度を相関させる。